



## SGH課題研究発表会 2年生の部

### ◇ 2年生 課題研究発表会 英語発表

日時：平成30年2月20日（土）午後

以下に、発表の様子と発表後の各グループから寄せられた振り返りを掲載します。

#### 【1組】「フェアトレード推進のメリットについて」

○私のグループではフェアトレードを推進していくにあたってメリットは何なのかについて、それらを関市でどう繋げていくことができるのかについて研究しました。

研究にあたって、まずフェアトレードについて深く掘り下げて考えました。しかしフェアトレードを関市と繋げて考えることは難しく、フェアトレードについては考えを深められたが、それらの考えをどう研究にいかしていくのか課題になりました。そんな中でいろんな先生方の助けもあり、フェアトレードタウンというものが存在するということが分かりました。そこでようやく研究とフェアトレードを組み合わせて考えていくことが出来ました。その後は、グループの一人一人が研究をより良くするために案を出し合い、実際にメンバーで集まりフェアトレードに関連したお菓子を作ってみたりして、とにかく様々なことに挑戦することができました。

発表を終えてみて、方向性も定まっていなかったのにもかかわらずいい発表が出来て嬉しい気持ちと達成感でいっぱいです。それに私は英語が苦手なのですがそれも含めてグループの一人一人が今回の発表をより良くするために、一生懸命練習することができて本当に終わった後の達成感

ものすごく、SGHを真剣に取り組んで良かったなと思います。

SGHは普段の勉強とは違う活動で手を抜きがちですが、一生懸命取り組めば取り組んだだけいいものになるので、SGHに今後取り組むのであれば真剣に取り組んで欲しいなと感じました。

(真常優子)

○私たちはフェアトレードを広めるための関市のフェアトレードタウン認定にはどうすればいいのか調べました。

フェアトレードに認定されるには多くのフェアトレードの商品が必要と聞いて関市の認定は難しいと思っていましたがグループのみんなとスーパーをまわって調べるとコンビニやイオンなどの企業がフェアトレード商品を扱っていることを知り関市の認定は難しくないと思い、調べれば調べるほど楽しかったです。また、メンバーのみんなと休みの日に集まってフェアトレード商品をつくったりスターバックスのインターンシップに参加したりと普段することないような体験ができとてもいい勉強になりました。



はじめは英語で話すなんてできないと思っていましたが本番でちゃんと話せてとてもホッとしています。グループのみんなとがんばってきたので達成感も感じました。今までフェアトレードについて調べてきたので発表が終わったから何もしないのではなくその知識をこれから生活で活かせるように買い物に行った時フェアトレード商品を探したりフェアトレードタウンを実際に訪れたりしたいです。  
(梅村日南)

○私たちはフェアトレードについて研究しました。フェアトレードにはさまざまなメリットがあるためどうしたら活用できるのか、フェアトレード商品になるには何が必要なのか、フェアトレードタウンに認定されるにはどうすれば良いのかなどを考えました。しかし私たちはフェアトレードという言葉聞いたことあるぐらいで、あまり詳しく知りませんでした。まずはフェアトレード商品であるコーヒーについて学ぼうと考え、先生が勧めてくださったマーゴのスタバでのインターシップに参加しました。

初日はコーヒーの作られ方や知識などの基本を教えて頂きました。今まで全く知らなかったことが多くとても良い経験でした。最終日には学んだことを実際にお客様に伝えるというイベントを行いました。スタバで学べたことはとても貴重であり素晴らしい機会でした。

スタバで学んだことを通して私たちはフェアトレードタウンに認定されるにはどうすれば良いかなどを考え、全校生徒にフェアトレードについて発表することができました。

今回のSGHの活動を通して、私自身たくさんのことを学ぶことができました。夏休みにインターシップに参加したことによりフェアトレードに興味を持ち、進んで研究することができました。また、フェアトレード商品を使ったお菓子を作ることでより楽しく調べることができました。

日本語で話すのさえ緊張して、本当に英語で話せるのかという不安はありましたが、なんとか成功させることができました。発表に至るまでとても大変でしたが、この4人で最高の発表ができて本当に良かったです。

この活動で学んだことを今後に生かしていきたいです。  
(後藤知紗)

○私たちの班は、「フェアトレード推進のメリット」について研究をしました。世界の貧困問題を解決するための手段として、私達に1番身近なものなのではないかと考えたからです。

まず私達が参加したのは、スターバックスでのインターンシップでした。インターンシップで、普段ほとんど飲まないコーヒーを飲み比べたり、スターバックスの活動について学んだり、自分たちで企画を考えたり、と全部が新鮮で、本当に楽しい4日間になりました。協力してくださった青木さんや相宮さん、先生方のためにも、この経験を頑張って生かさないと！と感じました。その後は、ポスターやプレゼンの準備に取り組みました。慣れないパソコン操作と原稿を作るとは時間もかかるし、正直大変だと思うこともありましたが、責任を持って、最後まで出来たことは、自分にとって、良い経験になったなと思っています。また、私達は、実際にフェアトレードを使ったお菓子を作りました。そうすることで、実現性を感じてもらえると思ったからです。作ってみるとすごく美味しかったし、グループの皆と楽しみながらできて、良い思い出にもなっています。

発表を終えて、まず頑張って良かったと感じました。順番も最後ということで、緊張して、原稿がとんじやったらどうしようとか、早口になったらどうしようとか不安なことがいっぱいだったけど、本番話している時は、緊張もそんなになくて、楽しんで皆と発表することができました。皆と何か一つの目標に向かって頑張ると、一人で頑張った時と達成感が違うし、絆も深まって良いなと思いました。そして、発表してからよりいっそう、自分をもっとフェアトレードについて知りたいと思うようになりました。これからも、フェアトレードのマークを見るたびこの活動の思い出を思い出すことができるって素敵なことだなと思っています。

最後に、ユースコネクションでお世話になった青木さんと、相宮さん、SGH担当の林先生、沢山相談ののってくれた上野先生と田中先生、何度も何度も原稿やスライドをチェックして下さった市原先生、そして、グループのみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう

ございました！

(西村玲菜)

### 【2組】「LGBT」

○私達は LGBT に対する差別・偏見に注目し、世界的に見ても日本の人口における LGBT の割合は多いことに気付きました。そこで日本が動けば世界に影響を与えられると考えたのです。LGBT をテーマに選んだ理由でもある差別・偏見を減らすことと、当事者の負担を軽くすることが求められていると考え、レインボーブックの制作・配布、多目的トイレの増設、男女で分けられた制服制度の見直しを提案しました。

インターネットや本で調べたり、当事者の方とお話をさせていただいたりするなかで、自分達の知識の少なさに気がつきました。また、知らなかったことを知る楽しさを実感し、初めはバラバラだったメンバー間での LGBT に対する考え方がまとまっていきました。

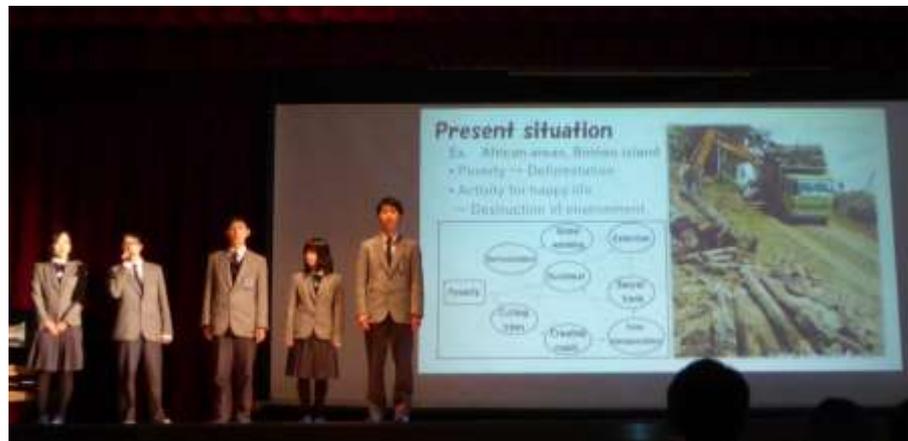


発表後、色々な人から感想をいただきました。自分達が調べて考えたことを周りの人達に伝えられたこと、興味を持ってもらえたことが嬉しいです。SGH の研究は終わりましたが、身に付けた知識をこれから先も周囲に広げていくなど、出来る範囲での活動を続けていきたいです。

(川嶋桃加、服部楓加)

### 【3組】「熱帯雨林から考える環境保全」

○私たちは、カメルーンで横行しているブッシュミートを抑制するために大豆の栽培を提案しました。大豆はタンパク質を多く含むので野生動物の肉の代替食材として期待できるうえに、育てやすく、かつ、ほかの作物の生長を助ける働きを持つからです。また、大豆の生長条件とカメルーンの気候を比較し、現地でも大豆が育つことを示しました。



私はこの SGH の活動を通して、二つの力を伸ばすことができたと考えています。

一つ目は「物事を多角的に見る力」です。私たちは初め、タンパク質を多く含んでいるという理由から大豆を選びましたが、「栽培」という観点で見るとさらにたくさんの長所があることに気が付きました。このように一つの視点に拘泥することなく別の方向からも考えたおかげで、案を深くまで掘り下げることができました。また、私たちは獣肉を減らすための案を提唱しましたが、2年4組は[Dear Deer ジビエのジビエによるジビエのための L-カルニチン]という提案をし、もっと野生鳥獣の食肉を広めようとしていました。似ている問題であっても、どこに重点をおくかで複数の解決策が生まれ、中には相容れないようなものもあることを知りました。

二つ目は「自分たちの案を批判的に見る力」です。「大豆は現地の人の口には合わないのではないか」「では、大豆の加工しやすさについて調べてみよう」というように反論を予想して考えを組み立てました。このことでより説得力のある提案になったと思います。

最後に、私たちに アドバイスをしてくださった先生方、本当にありがとうございました。私たちは曲がりなりにも一つの提案をすることができました。この SGH の活動を通して得た経験はとても大きいと考えています。これからは坂田先生がおっしゃっていたように身近なことにも目を向けていきたいです。(兼松宜弘)

#### 【4組】「ジビエ」

○今回の発表で、私たちは捕獲され、廃棄処分される予定にある鹿肉を如何に利用するか、また、それにより如何にジビエを普及させるかについて研究しました。研究を通して、0 から新しい解決策を見いだす難しさと楽しさを感じ



ました。更に、その解決策が実現可能なのか、問題は無いのかなど、解決策を理想だけで終わらせず、現実的な案として磨いていく大変さも感じました。発表では相手にわかりやすく伝える、ということ意識しました。難しい知識を必要とする課題だったため、日本語でも難しい内容を、英語で聴衆に伝える為にどうするか、という事を考えました。語彙の簡略化、発表の抑揚などをつけることで、わかりやすく伝えられました。

今回の研究、発表を通して私たちは、課題発見力、解決力、そして相手に伝える力を高められたと思います。今後も、身近な問題から世界規模の問題まで目を向けて、自分から課題を解決していけるように常に意識を持って生活していけるようにしていきます。(芝 雄介)

#### 【5組】「バイオマス発電」

○私たちはバイオマス発電に着目し、廃棄物として灰が発生する事を知りました。その灰の活用方法を考えたところ、研磨剤にできるということを知りました。そこで実際に作ってみたところ、安く、簡単に。そして油污れに強い研磨剤を作ることが出来ました。これを「森からの贈り物」という名前で、地元の道の駅・料理店に売り込みたいというのが私たちの SGH 活動でした。

この活動を通して、普段何気なく使っている電気について、森と私たちの関係についてなど、今まで知らなかったことを知ることが出来ました。また、プレゼン準備をするときには「どのようにしたら分かりやすく・見やすく伝えることができるのか」「どのように話せば自分たちの伝えたいことを上手く伝えられるのか」といったことを何度も考えました。普段、このようなことを行う機会がないので、大変ではあったけれど、新鮮な活動でした。

当日の発表は1・2年生だけでなく、外部の方々にも来て頂いて話をする上、2年生は英語での発表なので、とても緊張しました。しかし、全てを終えた時には、やり切れたという充実感が物凄くありました。この活動をやり切れたことが、自分にとってプラスになったのではないかと思います。

います。

SGH 活動を行う時に、「めんどくさい」「大変だ」「やりたくない」と思うことは多いかもしれません。実際、私たちがそうでした。しかし、この活動を通して、今まで自分が知らなかったことを知ることが出来るだけでなく、



コミュニケーション力・プレゼン力・英語表現の力など、多くのものを自分のものにしていくことが出来ます。この活動を通じて、多くのことを得てください。最後には「やってよかった」と思えるのではないかと思います。(大澤幸資)

### 【6組】「Wash-less plate」

○僕たちは、水質汚濁について考え Wash-less plate という皿を作りました。この皿は、洗う必要がなく拭き取るだけで汚れが落ちる皿です。そうする事で、水を汚す事なく皿を綺麗にすることが出来ます。それを可能にするのは、蓮の葉の表面構造を応用したロータス効果というネイチャーテクノロジーです。水や油、汚れを弾きます。また、抗菌ステンレスという鉄を使用して細菌の問題を解決しました。こうして出来たのが、Wash-less plate です。そして、それを SGH 課題研究発表会で発表する事が出来ました。



ここまで至るのに、僕たちは何度も何度も試行錯誤を繰り返しました。例えば、プレゼンの内容が起承転結になっているか、食い違いや重複になっていないかなどを確認するためグループの人たちで発表者役と傍聴者役に分かれて確認しました。

そうして、流れが不自然だったりするなど、わかりにくい所などを見つける事が出来ました。さらに、Wash-less plate の問題点を挙げて、解決しようとしていました。しかし、耐久性の問題や強い圧力に弱いなどの問題を解決する事が出来ず完璧に作る事は出来ませんでした。僕たちは、この様な皿の技術が認められて来年度の課題研究に繋がり僕たちが解決出来なかった問題を解決してくれる事そして実用化されて多くの問題を解決する手助けになることを期待しています。

今回、SGH で課題研究をやってきてテーマであったグローバルイシューが学べたのはもちろんの事、課題を解決するプロセス、それを外へ発信するテクニックなど様々な事を学ぶ事が出来たいい機会でした。この経験はどこかで役に立つと思います。SGH をやってきてよかったです。

(田原 晃成)



2年生の全てのグループが、このSDGs 17のゴールを達成するための案を発表しました。

### 【7組】「AIの活用と労働環境の改善」

○今回私たちは低賃金ではたいて学校に行けない子供たちや家族を十分に養えない大人たちに視点をおいて、それらの労働環境の改善を日本のブラック企業に置き換えて問題の解決法を探しました。そこで提案したのが AI

の監視による第三者集団の設立です。

この SGH の取り組みを通して、まず社会問題への興味の上を高めることができました。問題を探するという最初の段階から、私たちに深く関わる且つ世界でも問題となっているものを探す中で、様々なグローバルイシューを知り、これからの世界情勢等にも興味を持つことができました。また、英語の発表ということで、いかにわかりやすい単語、文法で言いたいことを表すか、というこれから必要となってくるような力も身に付けることができました。

これからの時代、これらのグローバルイシューを背負っていく者としての自覚を持ち、よりいっそうの関心を持ち続けることへの大切さに気づくことができたということが、今回の一番の収穫でした。(木佐貫晟矢 坂本純之介 土屋竹玄 井下大樹)



ステージでの発表がないグループは、日本語と英語でポスターを作成し、会場内に掲示しました。